

牧師所感：訳の分からぬ老人の希望

ここに一人の頭のオカシナ老人がいる。今年の ^{よわい} 齢は九十一歳で、来る 3 月 14 日で九十二歳になる。ところがこの老人がおかしなことを言って、周囲の人を驚かせている。というのは普通の人なら口にも出さない不可能なことを言って人を驚かせる。例えば運転免許書更新を口にすると、止めた方が良いという。親切に相手を勞って言っていることは分かる。が、世の中には九十から一百歳に至るまで、健康な人は多勢いらっしゃる。そのような人に自由に返納しなさいと勧めれば甚だ迷惑であろう。ところがこの老人は自動車免許書更新に執着する。

さて、もう一つ普通の人なら妄想と言えそうなことを、“自分は出来る”と主張して、相手（家人）を説得しようとする。“今から勉強して再度アメリカに渡って伝道する”と言って、自己主張を譲らない。譲らない理由は、アメリカにキリストの福音宣教に熱心な知人がいて、その知人がキャラバンバスを購入して、北米と南米を巡回して、“キリストの福音を宣べ伝える”計画を立てた時、誘われたからだ。家人は、“今の年齢では絶対に無理”だと言う。しかし老人は納得しない。というの岐阜にある刑務所の園園の兄弟が、“今から 10 年後に釈放される”と言つて、その時は老人が 102 歳になりますまで、“長生きするように祈っています”と言う慰めの手紙をもらったからである。ところがその兄弟だけではなく、世界中に存在する知人から“長生きして福音の歌を歌ってください、祈っています”という激励に答えて、歌を歌うのが目的だ。

さて、その強情な老人とは誰であろう。言うのも憚られるが、千葉県の八街市のグレイス教会の老牧師なのだ。日本人への宣教が祝福されることを願って諸賢の幸せを祈る。神に栄光あれ。アーメン！！